

## 「やさしい日本語」について

今月号の1面では、「やさしい日本語」を使った「大阪(おおさか)に 台風(たいふう)が 来(き)たとき」を掲載しました。

現在、日本に来る外国の方が多くなり、中には住んでいる方もいます。各地の自治体では、外国の方をはじめ日本語の理解が困難な方に向けて「やさしい日本語」での情報提供が注目され始めています。

大阪市でも市役所や区役所のホームページで「やさしい日本語」の案内が出てきています。

### 「やさしい日本語」の始まり

1995年1月にあった阪神・淡路大震災では、被災した外国の方の中には、日本語も英語も充分に理解できず、必要な情報を得ることができない人もいました。

この震災が契機となり、弘前大学・人文学部社会言語学研究室では、方言研究で培ってきた調査方法や日本語研究の実績をベースに通常日本語の理解が困難な方にもわかりやすく、また情報を提供する人にも使いやすい「やさしい日本語」の研究が進められています。

### 「やさしい日本語」文の作り方

「やさしい日本語」を作る場合、日本語を学習し始めた外国の方にとっても分かる日本語ということが前提になります。

弘前大学・人文学部社会言語学研究室では、「やさしい日本語」のポイントを12個あげています。

#### (1) 難しいことばを避け、簡単な語を使う

日本語能力試験の3級・4級レベルの漢字や言葉を使います。日本語能力試験3級程度とは、文字表現でいうと、小学校の2・3年生で習うくらいの読み書きが難しくない漢字、平仮名およびカタカナによる表現になります。

#### (2) 1文を短くして、分かち書きにする

- ① 主語と述語を一組だけ含む文にします。
- ② 1つの文には1つの情報だけにします。
- ③ 文の途中に「ね」などのことばを入れてもおかしくないところで区切り、空白を入れます。

(例) 地震じしんが ありました。

#### (3) 災害時によく使われることばは、説明を加えそのまま使う

(例) 消防車しょうぼうしゃ〈火を消す車ひ け くるま〉

#### (4) カタカナ・外来語はなるべく使わない

#### (5) ローマ字は使わない

#### (6) 擬態語や擬音語は使わない

(例) グラグラ、さっさと(逃げる)

#### (7) 使用する漢字や、漢字の使用量に注意して

##### すべての漢字にルビ(ふりがな)を振る

漢字の使用量は1文あたり3、4字程度が目安になります。

#### (8) 時間や年月日を伝える表記にする

① 時間は12時間で表記します

(例) 午後9時20分ごご じ ぶん

② 西暦で表記します

(例) 2014年7月17日ねん がつ にち

#### (9) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にする

(例) 揺れゆがあった → 揺れたゆ

#### (10) あいまいな表現は避ける

(例) 亀裂きれつが入はいったりしている建物たてもの  
→ 壊こわれた 建物たてもの

#### (11) 二重否定の表現は避ける

(例) 通れないことはない  
→ 通とおることが できます

#### (12) 文末表現はなるべく統一する

① 可能「することができます」

不可能「することができません」

(例) 火を使えます

→ 火ひを 使つかうことが できます

② 指示「してください」(勧誘と誤認するため)

(例) 手を洗いましょう

→ 手てを 洗あらって ください

#### (補足) 掲示物や配布物を作る場合、イラストや写真を入れるようにする

内容にあったイラストや写真を入れると視覚に訴えることができます。

イラストを入れる場合には、シンプルで見やすく理解できるものを選んでください。

【参考】弘前大学・人文学部社会言語学研究室発行『やさしい日本語のためのガイドライン』

障がいのある方への情報伝達にも当てはまることもありますので、ぜひ参考にしてください。